

当協会で開催した三歳児健診時のチンパノメトリー検査結果について 福島県保健衛生協会 市村勢津子

当協会で開催した三歳児健診時のチンパノメトリー検査結果について

○市村勢津子、大内真樹子、黒沢美枝子

5 伊藤真理子、及川秀誠、柴田眞一

公益財団法人福島県保健衛生協会

[ はじめに ]

10 三歳児健康診査での聴力検査としてはチンパノメトリー検査（チンパノグラム）、問診（中耳炎の既往や家族歴）、ささやき声・指こすりテストが行われている。当協会では平成9年度より市町村から委託されチンパノメ  
15 トリー検査を実施している。今回、本検査実施概況をまとめたので報告する。

[ 対象 ]

平成23年度から平成25年度までの3年間に、当協会で開催したチンパノメトリー検査を実施した三歳児6,303人を対象とした。また、総合判  
20

当協会で開催した三歳児健診時のチンパノメトリー検査結果について 福島県保健衛生協会 市村勢津子

定とチンパノグラムの型別は、平成25年度に実施した1,982人のうち、両側の聴力検査を実施できず判定保留となった11人を除く1,971人を対象とした。

## 25 [方法]

測定機器はインピーダンスオージオメータRS31（リオン）を使用した。

測定方法は、耳の穴に耳栓を押し当てて密閉し、外耳道に圧をかけながら与えた音の反射音の変化を測定することによった。

総合判定は耳鼻咽喉科医師の報告に従った。

## [結果]

実施市町村は、平成23年度が25市町村、平成24年度が21市町村、平成25年度が26市町村であった。実施人数は平成23年度が2,280人、平成24年度が2,041人、平成25年度が1,982人と年々減少傾向を示していた。

総合判定の結果は、各年度とも異常なし68～70%、要治療10～11%、要精検17～20%、

当協会で開催した三歳児健診時のチンパノメトリー検査結果について 福島県保健衛生協会 市村勢津子

治療中 0.3%、その他 0.7% であった。

平成 25 年度の総合判定とチンパノグラムとの関連性は、1,971 人中異常なしは 1,361 人であり、両側ともに A 型が 1,212 人であった。要治療は 195 人で両側 B 型と片側 B 型は 137 人、C 型は 58 人であり、両側 A 型は認められなかった。要精検 401 人からは両側 A 型が 147 人認められた。滲出性中耳炎が疑われた両側および片側 B 型はすべて要精検および要治療であった。

また、両側および片側に C 型が見られても異常なしと判定された例が 149 人認められた。

#### [ 考察とまとめ ]

実施市町村は平成 24 年度が減少していた。実施人数は原発事故に伴って幼児が県外に避難したことによる減少と考えられた。

総合判定の結果、両側 A 型であっても問診やささやき・指こすりテストの結果より総合的に判断し要精検となった例や、両側および片側に C 型が見られた場合であっても異常な

当協会で開催した三歳児健診時のチンパノメトリー検査結果について 福島県保健衛生協会 市村勢津子

しと判定された例が見られたことから、チンパノグラムの判定と問診およびその他のテストを含めた総合的判定が三歳児の聴力検査には有効であると思われた。

- 65 チンパノメトリー検査では、耳栓の当て方が悪いと圧漏れが発生し、正しい結果を得ることができない。検査対象が幼児であるためじっとしていることは困難であり、正確なチンパノグラムを得るためには、幼児に同行している家族や市町村担当者の協力が欠かせないと考える。今後、問診とささやき声・指こすりテストとの関連性についても検討していきたい。
- 70